



水稲刈り後の

土づくりについて



稲わらすきこみのポイント

未分解の稲わらが残ったままだと、来年に圃場で浮きわらやガスが発生し、稲の生育や農作業に悪影響が出ます。十分に分解させるため、稲刈り後は早め（なるべく平均気温15度以上のとき）稲わらをすきこみましょう。空気があると稲わらの分解が進みやすいため、地



▲ガスが発生し、株元が黒くなった稲。

表から5〜10 cmほどの深さですきこみます。すきこみ時に石灰窒素またはアグリ革命を施用すると、稲わらの分解を早める効果があります。

石灰窒素 (20kg/反)



稲わらすきこみ時に石灰窒素を施用すると、稲わらの分解を早めます。目や皮膚に刺激性があるため、作業時は十分注意しましょう。年内施用でジャンボタニシ防除にも防除効果があります。

アグリ革命 (2kg/反)

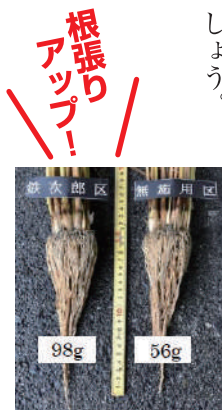


酵素の働きで稲わらの分解を早めます。酵素の働きがよくなるように、雨の後や朝露等、水分がある時に施用してください。春施用の場合は水を入れる1か月前までには施用しましょう。石灰窒素と併用する場合、1週間は間隔をあけましょう。

とれ太郎 (60~80kg/反)



ケイ酸が含まれている土づくり資材です。ケイ酸には根・茎・葉を丈夫にする効果や出穂期以降の稲体の温度を下げる効果（クーラー効果）などがあり、高温障害（白未熟粒の発生）を軽減します。



▲ケイ酸・鉄による根量増加

「ケイ酸」が不足すると稲の高温障害が問題となり、「鉄」が不足するとガスわきによる根傷みが問題となります。これらの対策として、秋〜冬にかけての耕起時または春先の耕起時にとれ太郎や鉄次郎を施用しましょう。

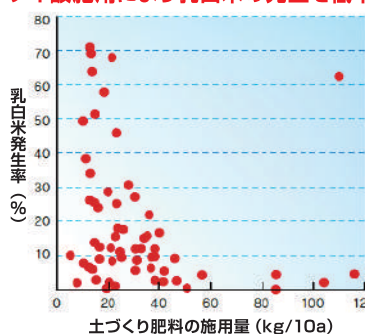
土づくり資材を施用しましょう

鉄次郎 (60~140kg/反)

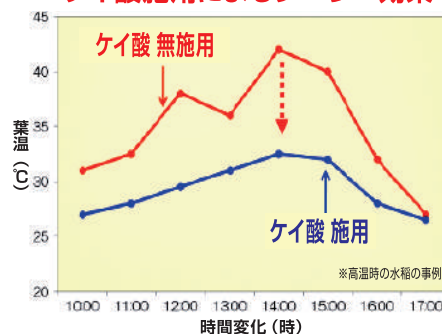


ケイ酸と鉄が含まれている土づくり資材です。鉄には光合成に必要な葉緑素を作ったり、植物の調子を整えたりする効果があります。ガスの発生を防ぎ、根を健全に保ちます。

ケイ酸施用により乳白米の発生を低下



ケイ酸施用によるクーラー効果



土の健康診断を



土の栄養状態を知り、
施肥設計に活用しましょう！

ＪＡ大阪北部では12月に土壌分析を行います。
土壌分析は土の健康診断です。ぜひ土壌分析をご活用してください！

- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------------|
| ◆対象者 | 組合員(お1人様3圃場まで) | ◆申込締切 | 令和7年11月14日(金) |
| ◆対象土壌 | 耕作農地全般(水田含む) | ◆申込先 | 支店購買店舗・営農経済センター |
| ◆分析費用 | 無料 | | |

詳しくは、最寄の支店購買店舗・営農経済センターまでお問い合わせください。